# 目次

メンバー紹介 …… 2

一周年特別企画 『一年を振り返る』 …… 3

がみちゃんの映画道　　番外編 …… 11

テレビデオ鑑賞記　 担当ちかちゃん …… 12

ちかちゃんのシナリオモドキ …… 15

yukoさんのショートストーリー …… 22

健ちゃんのテレカコレクション …… 24

# 読書を楽しむ会メンバー紹介

〔ＮＡＭＥ　ＣＯＤＥ〕

| | | | |
|---|---|---|---|
| ００１ | 会長 | 健ちゃん | fwnx7968@mb.infoweb.ne.jp |
| ００２ | 副会長 | がみちゃん | ＦＡＸ　０４５－５７３－５４４０ |
| ００３ | 書記・総務 | あみちゃん | ami77@infoweb.ne.jp |
| ００４ | 企画・会計 | ちかちゃん | chicako@shogo.com |
| ００５ | 編集・総務 | かよこちゃん | kayokoma@infoweb.ne.jp |
| ００６ | 相談役 | うさお | ismasuda@infoweb.ne.jp |
| ００７ | 会員 | ｙｕｋｏさん | shiro@hi-ho.ne.jp |
| ００８ | 会員 | 由佳ちゃん | wsyk@qc4.so-net.ne.jp |

## 規　　約

その１　読書・音楽・映画を楽しむ気持ちを常に持つことを会員の資格とする。

その１　会員の自主性を重んじ、ゆるやかなつながりで長続きするサークルを目指す

その１　会員は報告書をＦＡＸ・メール等で総務に連絡し、総務はそれを会報にまとめて会員に発送する。会報は二ヶ月に一度発行するものとする。

その１　年間を通じて読書数が最多の会員は日本文学界に貢献したものとして表彰される。

その１　会費は原則として０円とする。

その１　会員相互の話し合いによって、規約の追加、削除、変更を行う。

# DOKU－GAKU
# 一周年特別企画 一年を振り返る

この一年間でどんな企画をやったか、毎号どんなコーナーができてきたかを振り返ってみましょう。

**vol.1 ＜ 創刊号＞**　　企画 「漫画ベスト 5」

読書を楽しむ会規約
自己紹介
読書リスト
掲示板
次号予告

＊　この号だけ、白黒印刷でした。試行錯誤の中での発行。

**vol.2 ＜年末特大号＞**　　企画 「漫画登場人物ベスト 5」

メンバー紹介
2000 年に向けて
アルバム紹介
総力特集 「白夜行」

＊　初めて全員が同じ本を読むことができての総力特集。

**vol.3 ＜新春特大号＞**　　企画 「映画ベスト 5」

表紙は語る（かよこちゃん）
テレカコレクション(けんちゃん)

＊　カラー印刷になり賑やかに。「本棚拝見」の企画は、どうなっちゃった？

**vol.4 ＜4 月標準号＞**　　企画 「好きな作家、好きな作品」

廃墟遊戯(あみちゃん)
映画道(がみちゃん)

＊ ベスト5の評判の悪さから、企画変更。 でも楽しかったからいつの日か復活も‥。

＊ ｙｕｋｏさんが新たに会員に。

**vol.5 ＜6 月標準号＞**　　企画 「初めての出逢い」

テレビデオ鑑賞記(ちかちゃん)
ショートストーリー、作家紹介(ｙｕｋｏさん)

＊　コーナーも多種多様に。

**臨時増刊**　アンケート特集 「３０＋２の質問」

＊　企画のコーナーでやろうとしたものが、大勢の参加を得て初の増刊号に。

**vol.6 ＜8 月盛夏号＞**　　企画 「私の大好きな歌詞」

浜田省吾ライブリポート(ちかちゃん)
ショートストーリー(うさおさん)

＊さて定着するかな、ショートストーリー。

＊由佳ちゃんが新たに会員に。

# DG一周年記念アンケート

Q1　ＤＧをやってきて何か影響を受けたことがありますか？

Q2　心に残っている企画、コーナーはなんですか？

001健ちゃん

A1 通勤電車の中では短編とかエッセイとかどうしても読みやすいものになってしまうが、ＤＧ読書リストを読むことによって、最近は長編小説を読むようになってきた。

A2 映画の特集は面白かったけれど、なにしろ本数が多いので作品がしぼりきれない。なかなか面白い作品を思い出せなくて、あとで、あれもあったよな、なんて思ってしまう。

映画も文章と同じで何回も読んだり観たりしないと、そのよさを発見するのは難しい。

004 ちかちゃん

A1　パソコン関係では、打つのがずいぶん早くなったということと、進歩はあまりないけれどＷｏｒｄの勉強にはすごくなっていると思う。人間関係では、「省吾さん関係のメル友」「飲み友達」・・というお付き合いからぐっと親密になったと、一人だけにしろ思っています。話の幅が広がりますよね。

それと今回は特に顕著に出ていますが、ＤＧがなかったら出逢っていなかった感動ものの本や映画たちがたくさんあったように思います。

A2　後悔として心に残るのが、企画の「映画ベスト5」です。文を書くことになれていなかったというか、まだシャイなところがあって(今も名残りがありますが)自分を出し切れずに、これじゃだめよ～という編集さんの苦情にもどうしてもそれ以上書けなかった苦い想い出。違う形でもう一度やりたい、映画。

002 がみちゃん

A1 そりゃあこんな私がパソコン持ったこと。(でも、メールはまだよ)

A2 「Ｂｅｓｔ　５」　が楽しかった。昔を想い出してテンションあがりました。でもやっぱり一番は、あみちゃんの「廃墟シリーズ」。みうらじゅんの仏像の思い入れにもびっくりしたけど、それを超えるものがありました。

007 yukoさん

A1 何といっても、みなさんの読書量の多さ…しかも図書館で探されるとか…

生半可な好奇心ではついていけない、と少しあせった。

リストの批評もするどいし、的を射ている。本を読むという事を改めて意識した

みなさんから影響を受けた結果です。

A2　まだ新入会員なので…

特別企画の“アンケート特集”は充実した良い企画だったと思います。

コーナーでは、健ちゃんの「テレカコレクション」…毎号すごい！！というかおどろき！！というか　ついついテレカを見つけると、健ちゃんが浮かびます。

## ―ＤＯＫＵＧＡＫＵ一周年に寄せて―

ゲスト 綾美ちゃん

ショートストーリーは楽しみにしています。アンケートは出す方は大変だけど見る方は楽しい。ＤＧを知る前にあったらしい、「全員が同じ本を読む」というのはきっと面白かったと思うし、参加してみたかった。それで同時に感想を出し合えば意外な結果が見えたりするんじゃないかな。仕事が少し減ったらまた図書館へ行こうと思っていますがこのところご無沙汰しているので、昔古本屋で買って読んだ太宰治の「パンドラの筐」を飛行機の中でも読んでいました。昔の学生は今の子よりずっとずっと大人だったという気がします。友を選ばば書を読みて・・・って感じの学生が多かったのね。

002 がみちゃん

ＤＯＫＵ―ＧＡＫＵ　一年やってきてびっくりしたのは自分のこと。どっちかって言うと体育会系で文章なんて苦手なのに、こんな高いレベルの人たちの中にいるのが不思議。だからって言うのじゃあないけれど、近頃の私ときたら、本も読んでないし一体なにしてんでしょう？　私はイロモノだと思ってください。とはいえＤＯＫＵ―ＧＡＫＵとの付き合いはＣｈｉｃａちゃん達との付き合いの始まりなので、おバカなこと言いながらずーっと続くといいなァと思います。

004 ちかちゃん

去年の１０月、見切り発車で始まったようなＤＯＫＵ―ＧＡＫＵがめでたく一年を迎え、会員も増やすことができて、なんともはや感激の一語につきます。

新しい会員のｙｕｋｏさんと由佳ちゃんのことを思うと、こりゃあもう、省吾さんのおかげとしか言いようがない！(いやいや勿論、ｙｕｋｏさんと由佳ちゃんの賛同があってのことですが)

メディアにも出ず新曲も滅多に出さずというミュージシャンの、(異常な)ファンのおふたりの参加には乗り越えてきたものが多い分、心強いものがあります。(心の底からの誉め言葉です。曲解がないよう…)

個人的には、途中から企画になったり、前号から編集と印刷に挑戦したりとＤＧとのつきあい方も変わってきている中で、癖の強い(ｏｒアクの強いｏｒ個性の強い)ＤＧの会員の評価に、くじけそうになったことは一度ならずありますが、ゆるやかなつながりで流れていくことを基本にしたＤＧという会話の場を、また年をとっても楽しむことができる場を持てたことは嬉しく思います。

みんなの個性がＤＧをどんな風に変えていくか楽しみにしながら、これからも私は、この普通さと一般的な意見でＤＧの中から少しずつ楽しみを見つけてひっそりとついていこうと思っています。

007 yukoさん

一周年おめでとうございます。

読書が好き…というだけでは、なかなかこんな風に会を継続する事は出来ません。

本当に皆さんのやる気には頭が下がります。これからも、楽しい企画や、おもしろいコーナーを期待しています。（もちろん、会員として出来るお手伝いはさせていただきますよ）

まだまだ駆け出しではありますが、何とか付いていきますので、どうか宜しくお願いします。

## 一年を振り返って …… これが私のいちおしダ！

004 ちかちゃん

＜映画＞　「ノッキン･オン･ヘブンズ･ドア」
　監督　トーマス･ヤーン
　製作･脚本･主演　ティル・シュヴァイガー
＜小説＞　「ぼっけえきょうてえ」　岩井　志麻子
　「二夜の月」　千野隆司
＜ライブ＞　「ＯＮ　ＴＨＥ　ＲＯＡＤ　２００１」 浜田　省吾

「ノッキン・オン・ヘブンズ・ドア」は、天国に行ったら雲の上に腰掛けてみんなが美しい海の話をするという挿話をはじめ、会話や仕草や何から何までお気に入り。こういう映画を観ると、微かに残っていた感受性が騒ぎます。

「ぼっけえきょうてえ」は、先ず絵で驚かされて読み始めるまでに時間がかかったのに、読み始めたらおどろおどろしい内容にも負けず引き込まれて一気に読んでしまいました。短編の読みやすさと、短編とは思えない重さがありました。

「ニ夜の月」は、山本周五郎を継ぐ人だなって感じがしました。読書リストでは、簡単に「人情もの」とひとくくりにしでしまったけれど、自らを孤独に追い込んでいくような、優しい人間の切なさが好きです。

「ON THE ROAD 2001」については、前回たくさん書かせてもらったので遠慮しておきます

002 がみちゃん

この頃思うのは､懐かしさのラッシュ｡映画館でＧＡＰのコマーシャルでＴ－ＲＥＸかかったときから始まって､ブエナビスタ､サザンのパシフィックホテル･･･など､私にも若い頃あったんだなァって改めて想いだしました｡サンタナも頑張っているし､郷ひろみも二谷友里恵さんと別れて昔のようにはじけちゃってるし､私も重いお尻を上げ頑張りたいと思います｡ということで､懐かしさ全般が今年の一番の私のヒットでした。

ゲスト 綾美ちゃん

やはり身びいきで、おすすめは千野隆司。

「浜町河岸夕暮れ」　「かんざし図絵」　「札差市三郎の女房」どれもいいけど、好きなのは「二夜の月」

008　由佳ちゃん

「ブッタとシッタカブッタ」　　小泉　吉宏

愛嬌たっぷりのブタのキャラクターが主人公であり、そのほとんどが四コマ漫画形式なのでとても読みやすい本です。ブディズムっぽいものに惹かれてしまうこの頃、サクサク読めて、しかも手放さないでおこうと思った本です。続編の「そのまんまでいいよ」も素晴らしい本でしたので機会がありましたら是非ご覧になってください。

＜Ｐ１９６より＞

自分は一度も自分の中から　失われたことがないのに　どうして自分を捜す必要があるのかなぁ
自分をどっかよそへ忘れてきた　なんてことが　あるのかなぁ
本当の自分と今の自分って　別々のものなのかなぁ
別々のような気がするし　いっしょのような気もする
あぁ　自分の足跡すら　見つからないよぁ
本当の自分は何かの陰に隠れているのかなぁ
自分を捜す旅をして気がつくことは　苦しいとか楽しいという草や
いいとか悪いとかいう草や　損とか得とかいう草や
欲とか恐怖とか言ういろんな草が　道や足跡を隠して
ボクを迷わせているんだなってこと
そんな草をかきわけて　進むのって　とってもくたびれるけど
あっ　足跡が見えたぞ
美しい鳥の声が聞こえる　太陽は暖く　風はやさしい
ボクのまわりにおこっていることのすべてに敏感になった
この世の全ては　ボクの心でつくられていることを知った
心すら心でつくられていることを知った
そしてただただ　この空の下に立つとき　ボクはボクを見つける
見つけられた彼は　ひとすじ縄では取り押さえることはできない
自分の影のように彼は　追っても追っても　逃げる逃げる
頑固な彼を　大変な苦闘の末に取り押さえる
苦しんで疲れて立ち止まったら　彼は目の前におとなしくしていた
目覚めという鞭で彼はおとなしくなる
あばれさせていたのは自分だったのかもしれない
鞭と手綱を持っていないと　彼はすぐ　ゴミやホコリや泥んこの道に入って隠れてしまう
飼いならしていくと彼は自然とおとなしくなる
そうやってなれてきたら　鞭も手綱もいらない　彼は後からついてくる
心の中の奮闘は終わった
損だの得だの　いいだの悪いだの　好きだの嫌いだの　そんな妄想は消えた
彼の上にまたがって　彼が歩くままにまかせても大丈夫

ゆっくり　ゆったり　ゆらり　ゆらり　家に帰っていく
いい気持ちで　笛を吹いて　家に帰っていく
無心の彼と無心のボク
彼をつかまえたと思っているうちは　まだまだ病気
彼をつかまえたボクと彼とは　２つでなくて１つそのもの
たとえ話で彼がいるだけ　雲が晴れたら月は出てくる
もう彼に用はない　鞭も手綱もいらない
彼の思うままにさせておけばいい　そして彼のことなんて忘れてしまう
嬉しいこともいい　悲しいこともいい
ボクはボクのもとへ帰ってきた
さ　ゆっくり休もう
わかったとかわからないとかじゃない　気がついたとか気がつかないとかじゃない
悟ったとか悟らないとかじゃない　またその「じゃない」とかでもない
右とか左とか上とか下とかじゃない　どちらでもあるしどちらでもない
２つじゃない　ありがたいだのありがたくないだの　ためになるだのならないだの
いいだの悪いだの　うれしいだの悲しいだの　そんな名前の雪が降っても
みんな溶けてしまう
本来の自分に還るために　なんて苦労をいっぱいしてきたんだろう
草をかきわけ　猪を捜して　やっと飼いならして家に帰ってきたけど
すっかり猪のことも忘れて元に戻ってきただけだ
結局はありのまま　まんまでいいんだ
水は穏やかに流れている　花は紅く咲いている
はじめから世界はそのままで真実　はじめから世界は何も隠していないんだ
聖者賢者の後を追うこともない
心の旅を一周したことなんか　誰も気づかないだろう
僕はみんなと飲んだり笑ったり　それでみんな安心してしまう
超能力や奇跡をおこす力を使うわけじゃない
ただ歌ったり笑ったりするだけで　みんなみんな安心してしまう――――

時にはエゴと手をつなぎながら　時にはエゴと戦いながら、迷いもがき生きていくしかないのでしょうが　のほほんと息抜きすることを忘れずにいたいものです。結局は楽しんだ者勝ちだとやっぱり思います。
本当の幸せを探す主人公に、ブッタは　〃わしは今うまい茶を飲んでいて幸せだ〃と言います。〃そうではなくて、どうしたら本当に幸せになれますか？〃と聞かれ〃おまえの幸せなどわかるわけない。わしは今茶がうまいから幸せだ〃と言い放ちます。禅問答を思わせる会話ですが、よりたくさん幸福を見つけたければいかに今自分のおかれた状況を、あたえられた環境を楽しむかにつきますね。そんなことをシンプルに感じさせてくれた今年のベストの一冊でした。

007　yukoさん

《永順 花日記》

少し前なら、本を読んで鳥肌が立つほど感動したり、涙をながしたり・・・

そんな感性が備わっていたと思うのですが、正直何年かそういった感情から遠ざかっていました。

当然今年一番・・・・・に頭を悩ませてしまった訳ですが、本＝小説と言う事から離れて考えると、今年一番感動したのはこの「永順 花日記」でした。単にフラワーアレンジの写真集というのではなく、こんなに美しくて、こんなに繊細で、こんなに生き生きとした花たちに逢えるなんて、まさに、目からうろこ状態…

「高橋 永順」…たかはし・えいじゅん

フラワーショップ「ログ・キャビン」で花の教室を開設、ショーや、パーティーなどの花のアレンジを行っている。まさに、花に命を与える…と言う感じのアレンジはすばらしい。

この本の中の花たちを撮影したのは、彼女と彼女の夫の高橋省三さんで、花の事を知り尽くした二人の優しい心が伝わってくる。

月ごとに咲く花の解説と、その花を使ったアレンジの写真と、短いおしゃべり、

疲れた時この本を開くと柔らかい気持ちになって何だか分らないけれど、優しくなれる。

もっと早く出会えてたら、もっと早くフラワーアレンジの勉強をしていたのに…

最近はじめたフラワーアレンジには、実はそんな前置きがあったのです。

本の帯に永順さんのこんな言葉があります。

「心の中の半分は、いつも澄んだ空白の場所。新しい発見や感動を、その空白にうずめて吸収していきたいの

　残りの半分は私自身の想いや考えをより素敵に育てて行く…そんな場所だと思います。」

この本に巡り会えて後、大切な友達の誕生プレゼントにこの本を使わせていただいています。

例外なく永順さんの他の本を読んで見たいといいます。どの本も素晴らしいけれど、やっぱり一番にあげたいのはこの「花日記」です。

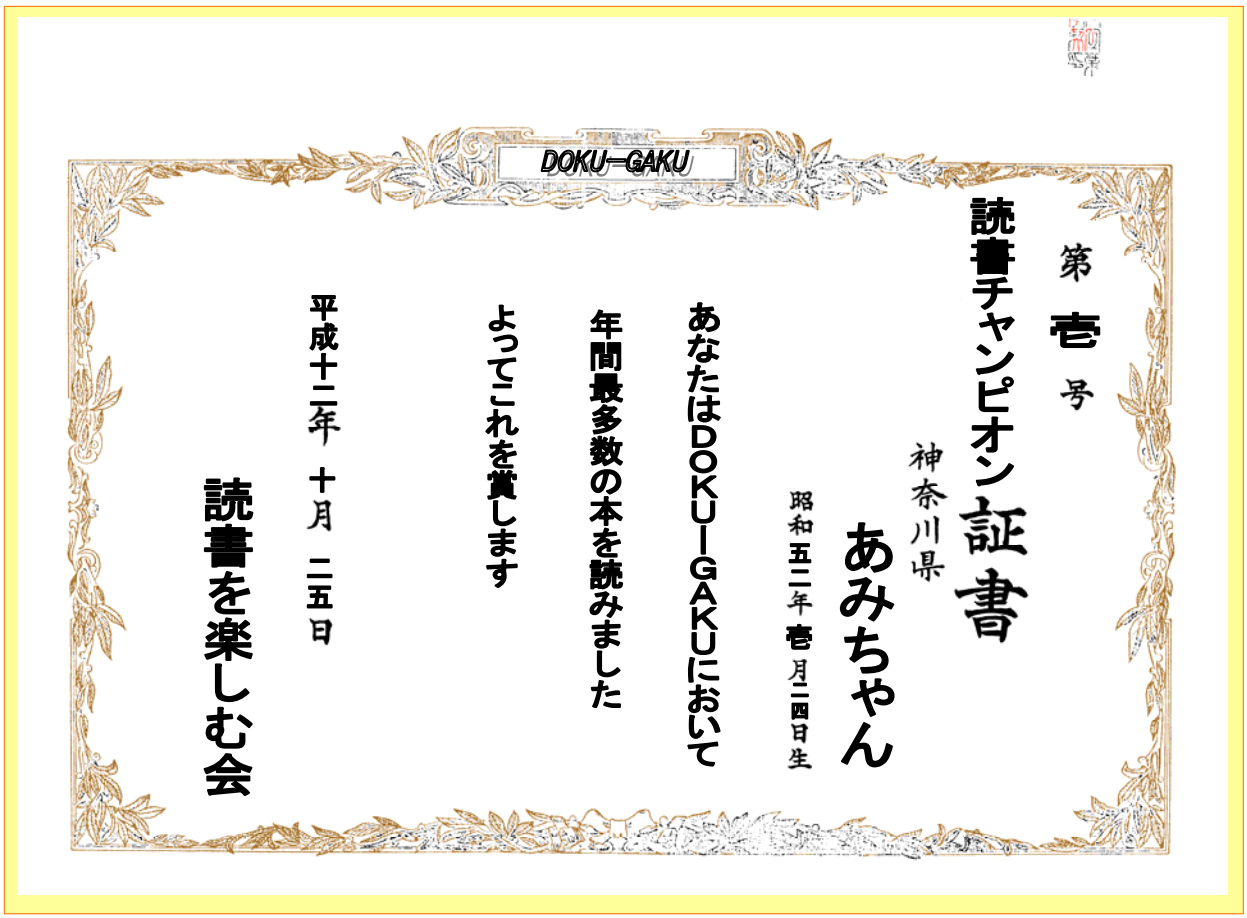
# 2000年度読書チャンピオン

| | | |
|---|---|---|
| 1位 | あみちゃん | １１６冊 |
| 2位 | かよこちゃん | ９１冊 |
| 3位 | うさお | ６５冊 |
| 4位 | ちかちゃん | ５５冊 |
| 5位 | がみちゃん | ３２冊 |
| 6位 | ｙｕｋｏさん | １２冊 |
| | （途中入会） | |

読書数が多いということが「本を読むこと」の目標ではありませんが、出会いの可能性を広げるという意味で、数多く読むということもまた、大切なことのひとつではないかと思います。
年間100冊の本を読むとなんと3.６５日に一冊のペースなんですよね！本と私達はとっても親しい関係にあるんだということに改めて気付かされもします。

では今年度**読書チャンピオン**の表彰です！

**あみちゃん、おめでとう！！**



# がみちゃんの映画道～番外編～

## 「ブエナ･ビスタ・ソシアル･クラブ」の正しい楽しみ方

於　・　国際フォーラム

しみじみ懐かしかったなぁ～。コンサートは久しぶり。バレエの公演には行っているので、休憩はいつかしら、なんて考えていたんだけど、コンサートって休憩ないのネ。

今回私の好きなＥｌｉａｄｅｓ　Ｏｃｈｏａは別公演なのでちょっと淋しかったけれど、コンサート中いろいろなこと考えてしまった。前や横の女の人のリズム感の悪いこと。始まる前までは、すごい御託並べてたのに始まったとたんテンション下がっちゃって。

踊ったことあるの？家でＣＤ聴いてれば！(ウフッ)

前の人には、それは違う、リズム、　違う、踊り！って突っ込みたくなった。(エヘッ)

今の若い子に正しいナイトクラブの通い方なんて判るわけがないけれど。

私にとっては、背伸びして大人の世界(それはどんな世界？)に入って大人の遊び知ってドキドキしてたあのころの私(どんな私？)に戻っちゃって、イヤ～照れちゃった。踊りも踊れず、リズム感も悪く、ナイトクラブも知らない人は後ろで見てましょうね。･･･と言っている私が番メーワクな客でしょう。

　オマーラの声はすごい！！

どんな楽器より人の声が一番すごいとは、友人の弁。トランペット、サックス、トロンボーンなどなどどれをとってもプロ！プロ！プロフェッショナル！

コンサートはコンサートって感じでまとまっていたので、映画のほうが感動すると思う。

ＤＶＤでコンサートライブがでるらしいけど、カーネギーホールのだったら絶対買い！！

感慨が全然違うと思う。

全面オールスタンディングで躍らせてくれたらなぁ。でかいナイトクラブの出来上がりだったのに･･。

# テレビデオ鑑賞記―第2回―

担当ちかちゃん

| | | |
|---|---|---|
| バッファロー´６６ | 賭け事の借金が払えず身代わりで投獄された男が、出所して家に帰るときについた嘘のために、女の人を拉致して幸せな夫婦を親の前で演じる。言葉遣いも態度も粗暴で、なんてひどい男・・、なんだけど独特な映像と早い話のペースにのまれる。実はわたし、メンクイを自認しているはずなのに吹越満がけっこう好きで、この主人公を見ているとどこか似ているなー、なんて思っていた。 | ☆☆☆ |
| ファイトクラブ | ブラピは金髪のほうが素敵、という感想くらいしかもてない映画。ストーリーさえ書くこともできない。なんなの？この映画。そこで映画通の人に聞いてみたところ、ブラピの役は主人公の心の現れで人には見えていないそう。へぇ～、面白そうな映画だったんだ・・。読みが浅い私としては、そのことを知った上でもう一度機会があれば観てみます。 | ？？ |
| ディープ・オブ・オーシャン | 頼りになる夫と、３人の子供との幸せな生活に突然襲ってきた悲劇。<br>２番目の子供が誘拐されてしまう。幸せなふりをして生活を続けて数年ののち、子供が見つかる。次男を取り戻しまた幸せになれると５人の生活を始めるが、誰もが変わってしまっていた‥。ミシェル・ファイファーの役は昔のいしだあゆみだなーなんて、今回はこんなんばっか。 | ☆☆ |
| ポーズ | 「おしゃべりパソコン犬　危機一髪」という副題がつくお子様向け映画。犬がしゃべることができたら、ってことみんな思うんだなぁ。そのうえこの犬はパソコンまでできる！すばらしい。　うちのあほ犬といっしょに観ました。 | ☆ |
| 茅ケ崎ライブ | その昔、浜田省吾がライブの使用を許可されなかった茅ヶ崎野球場でのサザン・オール・スターズのライブ。待ち時間や余計なゲストの長すぎるパフォーマンスも含めてゆうに 5、６時間はあの暑さの中、立ちっぱなしだったと思われる２万人。まずそのことに驚いてしまう。グレイの２０万人ライブのときは若い人が多かったので気にならなかったのに、サザンのファンにはつくづく感心。かなり好きじゃなけりゃいられない。それにしても、桑田くんってのはすごい。学生のころライブハウスでやって大騒ぎしていたころと変わらないパワーをまだ感じる。反体制の姿勢を今でもにじませているところも魅力的なのかなとは思うけれど、私はあの場にはいられなかった自信がある。 | ☆☆☆ |
| ワンダフル・ライフ | 邦画。いま売り出し中のＡＲＡＴＡの主演。今までの人生で印象に残った大切な思い出を選び映像で再現し、その思い出が鮮明によみがえった瞬間にむこうの世界へ旅立ち、そのときの自分が永遠になる･･･。　この映画も天国へ行くための扉。<br>風変わりな映画の作り方で話し声やカメラワークや演技も、変に自然だった。 | ☆☆☆ |

| | | |
|---|---|---|
| ノッキン･オン･<br>ヘブンズ・ドア<br> <br> | あみちゃんご推薦の映画。脳腫瘍のマーティンと末期癌のルディが天国で雲に腰掛けて海の美しさを話し合うために、見たことがない海を目指し病院を抜け出す･･･。<br>あみちゃんの好きなとうもろこし畑のシーンもがみちゃんの好きな海のシーンも、とってもとってもいい。ベッドで寝っころがって転がり込んできた１００万マルクの使い道を考えるシーンも、街の中で海のポスターを見つめるシーンも、二人が視線を合わせるいくつかのシーンも、大好き大好き！それに加えて、製作･脚本･主演のマーティン役ティル･シュヴァイガーの仕草や視線がなんともいえず魅力的。話の展開も最初からテンポがあってとても楽しい。それでいて、残された日々が少ないという切なさが、全編にちりばめられている。　海を目の前にして弱さのルディが強さのマーティンに答えるシーンなんて、ああ感動。<br>あみちゃん、薦めてくれて感謝です！ | ☆☆☆☆☆ |

## がみちゃんの　「私にも言わせて！ノッキン・オン・ヘヴンズ・ドア」

この映画ドイツ映画なのよネ。よみがえる「マリー･ブラウンの結婚」。

なんともいえない間(ま)、空白とでも言いましょうか。言葉の違いなのかしら。家で見たので落ち着いて見られなかったのは残念だったけれど。　ちょっと拒否反応があってみているのが苦痛だったけれど、ラストシーンの美しさと言ったらないので、すご～くよかった。

海を見ないで死んでいく人は多いんだろう。海があたりまえの私でも「ピアノ･レッスン」とこの「ノッキン･オン･ヘブンズ･ドア」の海はとても印象的だ。ラストシーンと　この海を見ただけでも見た甲斐があった。凝縮した時間、拳銃を突きつけられ死を覚悟したとき手を握り合える友が隣りにいること、何日間かは薬なしではいられないくらい苦しむんだけれど、あっけないほど突然死んでしまうこともすべてうらやましい感じ。天国で海の話をするのなら優しくて明るい海もいいのだけれど、人を寄せつけない広い海を見なくてはと思う。音楽よりも映像が印象的。

これがハリウッド映画なら音楽がもっと前面に出るのかもしれないと思いつつ、もう一回見ようと思う。

## あみちゃんの　「もう一度言うよ、ノッキン・オン・ヘヴンズ・ドア」

ＤＧ新春特大号ｖｏｌ.３　より

笑えて、泣ける！対照的なふたりの主人公がとっても魅力的。マーチンには惚れました！

印象的なシーンはたくさんあるけれど、とうもろこし畑を車でつっきるシーンがすごくいいんだよ――！

個人的に９９年の映画でいちばん良かったのが、この映画か「ロック、ストック」なのです。マニアが観ても満足できるし、エンタテイメントとしても楽しめる、めちゃめちゃよくできた映画です。

これは自信を持って皆々様にお薦めできます！

## まだまだ言いたい、テレビデオ　あーんど　ロードショー

ちょこちょこ、映画とか、ビデオとか観てます。
みなさん、おすすめの映画があったら教えてくださいねー。
最近はアタリがすくないんですよ。

「ラン・ローラ・ラン」☆　３つの結末があるお話。しんどい。寝ちゃう。
「バッファロー'66」☆☆　思ってたより観れた。でもギャロはきらい。
「マトリックス」☆☆☆　最後の銃撃が始まってからやっとおもしろくなった。
ヘリからの攻撃シーンの撮りかたがらしいなぁ、って感じ。
ウォシャウスキー兄弟なら「バウンド」のがすきですが。
「60セカンズ」☆☆☆　ストーリー自体はなんのひねりもなくありきたり。
でもそういうぬるま湯感がいいのよね。
なーんも考えずにぼやーっとカーチェイスを見てれば
それで結構退屈しない。
「ホワイトアウト」☆　これ原作読んで映画見たら怒るって！織田裕二構想５年とかぶち上げてるからさー、ちょっと期待しちゃったじゃん。ちっ。

## ＜ＪＵＮＥちゃん＞

「ライフ・イズ・ビューティフル」
ポストチャップリンと誉れ高いというイタリアの誰かさん、ＴＶの広告にもほだされ、観たいと思っていた。この「ライフ・イズ・ビューティフル」も、他の映画を観に行ってしまったために機会を逃がし、ＶＩＤＥＯで観た訳で、劇場でならまた違ったのかもしれないけど、このポストチャップリンの言葉が疎ましく、哀愁を感じることができなかったのは、やはり私の感性の貧しさ乏しさのせいでしょう。必死に我が子に明るく振舞う切なさが逆にこっけいに思えて軽かった。
「ストーリー・オブ・ラブ」
あまりにも日常過ぎて、深みにはまることもできずに２Ｈが過ぎ最後の５分で泣いた。夫婦の関係や、家族ナンテ、ホントに難しく思ってはいけないんだと、つくづく思えた。その日まで築き上げた全てのものが宝物で、そこまで培ってきたものは尊いもの、簡単には捨てられないものだって。愛し始めた初めがあって、そのときを忘れないように。無駄に過ごしてしまった時間も全てが大切に思えますように！と祈る。
「60セカンズ」
車泥棒のお話。華麗な盗み技は芸術。此処にも家族の愛が根底にあったよ。だから泥棒のテクニックを楽しみながら、やはり、´愛´に弱いＪＵＮＥとしては、警官との最後のシーンも弟の最後のプレゼントも嬉しくて、やっぱりちょっぴり感動してしまいました。

## 「ちかちゃんのシナリオモドキ」

**ご挨拶**

この前机の引出しを整理していたら、昔書いたシナリオモドキが二編ほど出てきました。前回、うさおさんも懐かしの「綾の鼓」を発表していたのでその勢いを借りて私も思い切ってＤＧに載せることにしました。それを決めるまでは自意識との戦いでしたが、願わくば、この号を抹殺したいと後悔にさいなまれないことを祈りつつ･･･。

# 遅れて来た恋人

1987 年４月　午後６時　Ｔ駅　駅前広場。降り出してきた雨。
駅構内の屋根の下で空を見上げている行坂周子。バスターミナルに目を向ける。
ゆっくり動き出したバスに向かって走リ始めた周子に若い男北村草（そう）が声をかけてくる。

草「すみません、Ｓ町に行くバスは･･」
周子が目指して走っているバスに向けて、指を指し
周子「あのバス！」
二人で走るが草が先にバスの入り口に着き待っている。

バスの中。車内で並んで吊り皮につかまっている二人。
草「すみません、忙しいときに声かけちゃって」
周子「（照れくさそうに）これに乗れないと、スーパーに間に合わないの」
草「一丁目の葵ハイツって知りませんか？」
周子「葵ハイツ･･？確かうちの隣りのアパートだと思うけど」
草「わぁ、ついてるなぁ」
周子「でも案内はできないわ。あたし手前で降りるから」
バスのブザーを押す周子。
バス停に着きドアが開く。降りようとする周子に
草「傘」
振り向いて、周子「え？」
草「傘ないでしょう、これ」と周子に傘を差し出す。
周子「いえ、平気ですから」
草「降ってるから持っていってください」
傘を押し合う二人に、
バスの運転手「降りるの、降りないの」
バス停の前に二人。傘を広げ周子にさしかけ
草「買い物、付き合います」
笑う周子。

スーパーの袋を抱え歩いている周子と草。葵ハイツの前。
周子「遠回りさせちゃってごめんなさいね。お友達によろしくね」
となりのアパートの階段を上って行く周子に
草「あの！僕、北村草って言います。雑草の草です」
振り返って周子、笑顔で
周子「行坂周子です、運動場一周の周です。それじゃ、傘ありがとう。さよなら」
草「さよなら」

周子の部屋。テーブルに置かれた封の切れている封筒。　手紙を読んでいる周子。
周子「〃おまえももう 25 なんだから〃･･･か」
手紙から目を離し、同封されている写真を見る。見知らぬ男の顔が、沢木耕介の顔に･･･。
イメージ　沢木　〃変わったな、周子〃

振り切るように立ち上がり、テレビの横の箱のふたを開ける。たくさんの写真。
その中から一枚取り出す。
写真の中で、笑っている周子と沢木。その写真に向かって
周子「変わらないわよ、あたしは」
写真をびりびりに破く。

周子の会社の化粧室。午後５時過ぎ。
手を洗っている周子。その横でお化粧直しをしている三人の女性。
その中の一人の高杉芙弓が口紅をひきながら
芙弓「周子、お茶飲んでいかない？」
鏡の中で眼を合わせ
周子「お茶？」
芙弓「じゃ、『浪漫』にする？」
周子出て行きながら「ＯＫ」
芙弓「周子、お化粧直さないで行くの？」
周子、足を止め鏡を覗き込み
周子「充分じゃない」
笑って出て行く周子。顔を見合わせる二人の女性。

居酒屋　『浪漫』
乾杯している周子と芙弓。
芙弓「さっき周子がトイレから出て行った後ね、小野ちゃんたち言ってたわよ、周子さん失恋でもしたのかしらって」
周子「お化粧直ししないだけでそんなこといわれるんだ。すっぴんで行ったら、自殺するんじゃないかって言われるね」
芙弓「でもよかったよ」
周子「失恋して？」
芙弓「それもあるけど(笑)。沢木さんのこと。別れたとき、周子会社辞めるかと思ったもの」
周子「やめたら、生活困っちゃうじゃない。芙弓とこんなに飲んでばっかりいられないわよ」
芙弓「そうだよね、いまどき不倫が終わったからって会社辞めるなんて流行らないもんね」
周子「芙弓、声が大きい」
芙弓「だけど、2 年も社内不倫していてよくばれなかったよね」
周子「声が大きくておしゃべりな友達に話していたわりにはね」
芙弓「別れたときのことは聞いてないわよ」
周子「全部話しちゃったら面白くないでしょ」
イメージ沢木　〃ごめん・・妻が自殺を図って・・もうこれ以上は・・・〃
周子「もうその話は終わり！」
二人のテーブルに焼き魚が運ばれてくる。
芙弓「これ、頼んでないよ」
遠くから男の声。「行坂周子さ―ん！」
振り返ると、カウンターの中で北村草が笑って手を振っている。
周子「あら、雑草の草クン！」
草「食べてください、僕が焼いたんです！」
周子「ありがとう」
芙弓「このお店、あたしと来てただけじゃないの？」
周子「よそで知り合ったのよ。さ、いただきましょう」
食べはじめる周子を見つめるが、やがて芙弓も食べはじめる。

レジで会計をしている周子。カウンターの中から草が「また来てくださいね」

店を出たところで、後ろから男の声。
「こんなところで飲んでるのか」
驚いて振り向く二人。沢木が立っている。
周子「・・・沢木さん・・」
突然、『浪漫』の扉が開き草が顔を出す。
草「お忘れ物でーす！」その手には、周子のハンカチが。
草、その場の雰囲気に気がつき、周子と沢木の顔を見比べる。
周子、ハンカチを受け取り、草に向かって「ありがとう」沢木に向かって「おやすみなさい」

沢木、歩いていく。
芙弓、沢木の後ろ姿を見ながら「沢木さんて、あんなこという人だっけ」
周子「このお店、安くておいしいけど、会社に近いのが難点ね」

日曜日の昼間。周子のアパート。
二階の部屋のベランダから洗濯物を干している周子。
隣りのアパートの階段に座っている草を見つける。
周子「草クン！この前はお魚ご馳走様！」
草、見上げて周子に気がつき「ああ周子さん、こんにちは」
周子「そんなところで何してるの」
草、となりのアパートを指差して、「いないんだ」

下着の洗濯物が見えないように、カーテンを少しひく周子。
周子の部屋。
周子「お隣りの彼女に怒られるかな、うちに呼んじゃって」
草「男友達ですよ」
ラーメンを食べている草。周子もいっしょに食べはじめる。
周子「今はこんなに静かなんだけどね、隣りのアパート、二年位前かなぁ、暴走族の溜まり場みたいで」
草「うるさかった」
周子「すごいの、みんなオートバイでくるから。でも、最近はやっと出て行ったみたい」
草「『浪漫』もかなりうるさいでしょう？」
周子「ああいう人の賑わいって好きなの。草クンはいつから働いているの」
草「つい最近。ほんとはまだ魚なんて焼いちゃいけないんだ」
周子「あら、それじゃおこられたでしょ。インスタントラーメンで悪かったかしら」
草「そうだな、今度のサービスは冷奴くらいかな」
周子「これからコーヒーも出すけど」
草「じゃあ、思い切って、お店に内緒でビールつけちゃおっか」
周子「よくあたしたちの好きなものがわかるね」
草「お強いもの、お二人とも」

時計４時を回っている。飲んだあとのコーヒーカップが二つ。
周子「もうこんな時間。お友達帰ってきてるんじゃないの」
草「そうだね、そろそろ行ってみるよ」
明るい笑顔。

会社。席で仕事をしている周子に
沢木「行坂くん、資料室のほう手伝ってもらえるかな」
周子「―はい」

資料室。本の整理をしている周子。窓際に立って煙草を吸っている沢木。
沢木「妻とは別れることになりそうだ」
周子、一瞬手が止まるが本の整理を続ける。
沢木「周子・・」
周子、沢木に向かい「奥様の手首の傷は治ったんですか？」
沢木、黙り込む。周子、再び本の整理を続ける。

居酒屋　『浪漫』
カウンターで一人で飲んでいる周子。他のテーブルに運び終え、カウンターの横にくる草。
草「今日は相棒は？」
周子「芙弓？・・こんな日に限ってお休みなの」
草「何かいいことでもあったの？」
イメージ　沢木の顔。
周子、ビールを飲み干し「まぁね」

夜道を草に支えられるように歩く周子。
周子「送ってくれなくても、ぜーんぜん平気なのに」
草「そうだね」
周子「信じてないな、ほらまっすぐに・・」

草の手を放し歩き出すが、大きく崩れる。手を差し出す草。
草「そんなにいやなことがあったの？周子さん・・」
周子、顔を草に向け、差し出された手を振り払い一人で歩き出す。

周子のアパート。倒れこむようにソファーに座る周子。台所でお水をくんでいる草。
草、コップを持って周子のところへ。写真を破いている周子。
草「何してるの？」
周子「一日一枚ずつね、破いていくの。そのうちに、なーんにも感じなくなっちゃうわ」
イメージ　沢木　〃妻とは別れることに・・〃
周子「今更、ね・・。今日は二枚破っちゃお」

周子の眠っている顔。テーブルの上で破かれた写真がつなぎ合わされている。
草「あいつか・・」
イメージ　『浪漫』の前で周子と沢木
破かれた写真をごみ箱に捨て、電気を消そうとするが戻り、箱の中から写真を出す。
草「僕の分ね」
といいながら、草も写真を破く。
電気が消えた部屋。草の声。「おやすみ周子さん」
ドアが閉まり鍵の閉まる音。新聞受けに鍵を落とし、立ち去る草。

周子の会社。廊下を歩いている周子の背後から
芙弓「(元気よく)おっはよー！」
周子「大きい声ださないで」
芙弓「なに？二日酔い？」
周子「・・・トイレいってくる」

周子のデスクの電話が鳴る。
周子「はい・・はい私ですが」
草『ご気分はいかがですか？』
周子「あ・・草クン・・夕べは、どうも・・」
草『どうもって、覚えちゃいないでしょ』
周子「な、なにか・・あたし・・した？」
草『周子さんて脱ぐ癖があるんだね』
周子「・・・・・」
草『(笑)ほんとなのぉ？それ』
周子「ここの電話番号もあたしが・・？」
草『あんなころからもう覚えてないの！』
周子「すみません、所々は・・。家まで草クンが送ってくれたのよね。あの、ずいぶんご迷惑かけたみたいで・・今度うちのほうに来てください。お詫びにご馳走するから」
草『お酒も忘れないでね』
周子「お酒はもう止めたの！」
電話を置く周子。
イメージ　草の心配そうな顔　〃そんなにいやなことがあったの・・〃
周子「・・・あー、自己嫌悪」

日曜日の夜。周子の部屋。
テーブルの上にたくさんのご馳走が並ぶ。ワインで乾杯する周子と草。
草「お酒やめたんじゃなかったっけ？」
周子「やめたよ、一週間」
草「脱がないでね、今日は」
周子グラスを合わせ「忘却のために」
食べながら、楽しそうに話している二人。
レコードを見せている周子。
コーヒーを飲んでいる草。

映画館の前で、周子と草。

街を話しながら楽しそうに歩いている周子と草。

周子のアパートの階段を、スーパーの袋を持って上っていく周子と草。
離れたところから、二人を見ている少女。高見沢彩。
周子の会社。化粧室でお化粧直しをしている周子。その隣りに芙弓。
芙弓「最近、妙に浮かれてない？」
周子「別に」
芙弓「やけに念入りじゃない？お化粧」
周子「食事は一人じゃ淋しいと思うわ、最近。お先に」
化粧室を出て行く周子。
芙弓、首を傾げ「なぁに、あれ」

居酒屋　『浪漫』
周子と芙弓。周子、草の姿を捜すが見当たらない。店員に
周子「北村くん、今日はお休みですか？」
店員「北村は先週やめたよ」
周子「え！？なんで・・」
店員「もともと早退けや休みも多かったしね、体調崩したらしいよ」
周子「連絡先、わかりますか？」
店員「履歴書とかもらってないしね」
周子、少し呆然とする。立ち去る店員。
周子「・・あたし名前しか知らなかったんだっけ」

周子の会社。エレベーターの中に周子と沢木の二人。
沢木「今夜、食事に行かないか」
周子「沢木さん、あたしたち半年前に別れたんでしょう」
エレベーターが６階につき、「失礼します」降りる周子。沢木を残しエレベーターが閉まる。

会社のデスクで暇そうにお茶を飲んでいる周子と芙弓。
芙弓「連休どうするの？」
周子「決まってない」
芙弓「お互い、さえないね」
周子のデスクの電話が鳴る。
周子「はい、・・・(突然大きな声で)草クン？！」
周囲から注目され声をおとして話す周子。クスクス笑う芙弓。
電話を切り、にこにこして芙弓の席に近づき、
周子「連休の予定は今日決まるわ」

周子の部屋。テーブルの上には何品かの料理が並んでいる。グラスの用意をしている周子。
チャイムの音。ドアを開ける周子。
周子「はーい、どうぞ」
ドアを開けたとたん、周子の笑顔が止まる。少女が立っている。高見沢彩。
周子「・・・どなた？」
少女「私、高見沢彩って言います。北村くんのことで」
後ろ手にドアを閉める彩。
彩「北村くんにもう逢わないでください」
周子「え？」
彩「あなたにはもっとふさわしい人がいるでしょ」
周子「ふさわしい・・って・・。なんでそんなことあなたに言われるのかしら」
彩「失礼なことだと思っています。でも、行坂さんおいくつですか」
周子「２５ですけど」
彩「だったらもっとおとなの人と！」
周子「・・どういうこと？」
彩「だから何も高校生と交際あわなくっても」
周子「――高校生？」
彩「来年、北村くん受験なのに変なお店でアルバイト始めちゃうし、学校も休むこと多くなったし
このままじゃ、北村くん」
涙ぐむ彩。
周子「・・・あたしのせい、ってことね。――判ったわ。泣かなくていいから。・・・もうお帰りなさい」

お辞儀をしてドアを閉める彩。走っていく足音を聞きながら
周子「・・高校生か・・まいったな・・」
用意されている料理と、ワイングラスを見つめながら
周子「なんで制服着ていてくれなかったのよ」
イメージ　笑顔の草の顔。
周子「高校生だって知っていたらあたしだって・・・」
イメージ　心配そうな草の顔。
周子「・・・好きになってた、な」

時計 9 時を過ぎている。手をつけられていない食事。周子一人。写真の箱が目に付く。
周子「そういえば最近写真を破いてなかったっけ・・」
写真の箱から写真をとりだし、写真を見つめる。
周子「これも草クンがいたからなんだ・・」
周子、写真を見て何かに気づいたように笑い出す。
チャイムの音。
ドアを見つめる周子。

部屋の中。周子と草。
草「遅くなってごめん。料理冷めちゃったね」
周子「あの娘と交際あっているんでしょう？心配してたわよ」
草「・・彩とさっき下であって話をした。おしゃべりしていったらしいね。でも彩とは、なんでもないんだ。話をしたい、周子さん」
周子「いつもしてるじゃない」
草「じゃあ告白する」
周子「受験勉強遅れちゃったでしょう」
草「聞いてよ」
周子「さっき写真見ていて気がついたんだけど、あの娘、あたしに似てるわ」
草「彩は関係ない」
周子「あの娘の延長であたしを見ていただけよ」
草「彩より先に周子さんにあっていたとしても？」
周子「え・・？」
草「二年前、隣りのアパートに友達がいてそいつのところによく遊びにきてた」
イメージ　　たくさんのオートバイ
周子「あのときの・・一台なの？」
草「その時周子さん見て好きになっちゃったんだ」
周子「何故そのときに・・」
草「16 だった・・。周子さん相手にしたと思う？隣りのアパートにオートバイで遊びにくる高校生をさ。いらいらしながら、僕は周子さんに似ている彩と交際あおうかとも思ったよ。だけどやめた。周子さんがやっぱり好きだったから」
周子「じゃあ、今となりにいるって友達は？」
草「去年、引っ越した」
周子「じゃあ、駅で道を聞いてきたときは？」
草「一週間くらいあの時間に行って、周子さんが帰ってくるのを待ってた」
周子「『浪漫』は！？」
草「よく行く店だって知ってからバイト始めた」
周子「いつまで黙っている気だったの？」
草「もう少ししたら、制服で逢って驚かそうと思っていた」
周子「今じゃなかったのね」
草「ごめんなさい・・」
周子「見事に乗せられたって訳ね、あたし」
草「そういう風には考えないで欲しいんだ。ただ僕は周子さんが先入観を持たずに出逢いたかっただけなんだ」
周子「ずいぶんと手間をかけたのね・・。判ったわ。・・今日はもう帰ってくれる？ここにはもう来ないほうがいいわ」
草「今日は帰るけど・・僕が本気で周子さんを好きだってことだけ考えるわけには行かないかな・・」
周子「どうやって考えていいのか、判らない」
草「でも信じてよね、それだけは」
立ち上がりドアに向かうが、振り向いて

草「今度の土曜日に待ってる。T駅の改札で、7時に」
周子「行かないわ」
草「――来なかったら、それでいいから・・。傷つけるつもりはなかったんだ。ごめんね、周子さん」
淋しげな草の顔。

金曜日。
周子の会社。元気のない周子。見守る芙弓。
芙弓「どうしちゃったのよ、今夜飲みにでもいく？」
周子「明日・・明日映画に行こうよ」
芙弓「明日会社休みじゃない、映画なら今日行こうよ」
周子「ダメなの、明日じゃないと」
芙弓「明日からの映画なの？」
周子「何の映画でもいいから」
芙弓「何があったのよ」
周子「すっごく楽しい映画観ようね！」

土曜日。映画館。喜劇を観ている周子と芙弓。笑って観ている二人。
時計　6時30分笑っている周子　　画面　　草の顔　　ポップコーンを食べている周子。
時計　7時30分　笑っている周子。
イメージ　草の顔　〃僕が本気で周子さんを・・〃
時計　8時　　楽しそうな画面。周子もう笑っていない。
イメージ　草の顔　〃傷つけるつもりはなかったんだ・・〃
周子　　画面　　笑っている芙弓　　周子　　草。
周子、涙を浮かべる。
芙弓「泣くような場面じゃないわよ」
周子、手にしていたポップコーンを芙弓に渡し
周子「ごめんね、明日話すから」
映画の途中で席を立ち、出口に向かう周子。その周子を眼で追いながら
芙弓「青春してるねぇ」
芙弓、視線を映画に戻し、渡されたポップコーンを食べはじめる。

T駅改札口。10時を過ぎている。
周子、草を探すが、いない。階段を駆け下りる。
イメージ　草　〃来なかったらそれでいいから・・〃
周子「そんなに簡単にあきらめないでよね」
階段の下で草の姿を探す周子。その背後に
草「すみません、S町に行くバスは・・」
周子が振り向くと、草が立って笑っている。
草「遅刻だよ」
周子「三時間も・・？」
草「二年間待ったついでだから。我慢強いでしょ」
周子「(笑)若いわりにはね」
草「必ず大学来年入って、急いで卒業しちゃうからね」
周子「そんな先のこと・・。まだ大学にも入っていないのに」
草「僕って案外、計画通りに行くタイプなんだ」
周子「(笑) 知ってるわ」
草、視線を移し「あ、最終バスだ！」
周子がバスに視線を向けているうちに、草　バスに向かって走り出している。
草「(振り返り) 送っていくから！」
草の後を追い、走り出す周子。
バスのタラップのところで先について待っている草。
その草に
周子「ありがとう、草クン。待っていてくれて・・・」
微笑む草。微笑む周子。

――――　終　――――

## ００７　yukoさん　の　ショートストーリー

「カフェテラスにて…」

バルコニー風のカフェテラスで
あなたを見かけた
ハマカラーの白いシャツが
緑に映えてまぶしい
アイスコーヒーのグラスを
ストローで弄びながら
時折　腕時計に目をやる
待ち合わせかな…少し気になる

どうか　私に気付きませんように…
あんまり見つめると気付かれそうで
それでいて　目を離せない
頬の線が少し鋭くなったみたい
淋しそうな横顔は　あの頃のままね

今度の人は優しい人？
悲しい恋は　していませんか…それが気がかり

髪の長い可愛い人　微笑んで
あなた片手上げて笑う

あ……
私のグラスの中
飲みかけの　シトロン
うつむいて　かき回すと
小さな泡が　いくつも…はじけた

その娘は いつも約束より10分遅れて やってくる

まるでその 10 分間で、僕を確かめるように

「待つのは嫌いなの…」

まったくわがままなやつ

解っているのに僕は又今日も 5 分早く待ち合わせ場所にやって来ている

雨に洗われた後の緑が 陽の光を受けてキラキラ光る

まだ少し幼い彼女には 似合いのカフェテラス

学生だった頃 待っているその女(ひと)の 淋しい顔を見たくなくて

必ず 5 分前には店のドアを開けた‥‥その頃の癖が抜けていない

少し年上を気にして 臆病な僕の気持ちばかりを考えてくれた女(ひと)…

今心の中を占めているのは 苦労知らずでわがままで

無邪気な笑顔がとびっきりの 彼女にはちがいないのだけれど

雨上がりのこんな日は 心の奥でひっそりと息づいている 過ぎた日の想い出が

突然に鮮やかな色をつけて 僕の胸をしめつける

捨てた訳でもなく 振られた訳でもない

ただ 時の重なりが 二人を遠ざけて 何年がたつだろう

「ねえ、聞いてる…？」

彼女は先刻から 先週見た 好きなハリソン・フォードの映画の話に夢中になっている

「ほんとに 素敵なの！」

彼女の口癖…

「あ…ああ聞いてるよ」

「あなたの心って 時々遠い所に旅してるみたい」

唇を尖らせて僕を睨む彼女を愛しいと思う

「緑がきれいね…」

「うん…出ようか…？」

僕たちのドラマは まだ始まったばかり

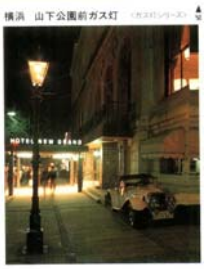
一人よがりの感傷で 彼女の瞳を曇らせてはいけない

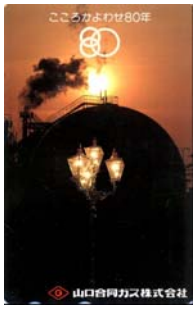
僕はそっと 彼女の細い肩を抱いた

# 健ちゃんのテレカコレクション

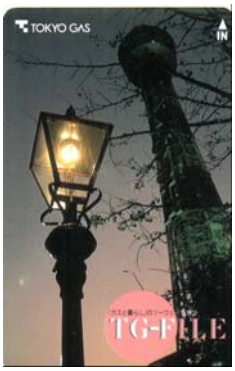
## 〈第5回　ガス灯編〉

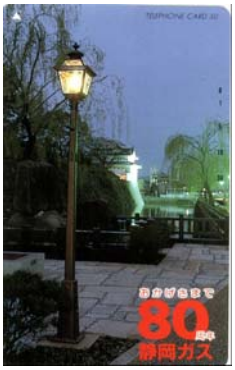
今回のコレクションのテーマは『ガス灯』ということで
なぜこんなものを集めているんだろうと、疑問に思う方もいると思います。
数多く収集をしている中で、ガス灯は趣味とは関係なく集めたもの。
ガス会社に勤めている関係で、まあ、ささやかな愛社精神というものでしょうか。
退社した暁にはガス資料館に寄付でもしようと思っているのですが、
資料館に並ぶテレカはなかなか立派な資料になるんじゃないかと、
ひとりで想像し、ついニタニタ(^_^)してしまうんですよね。

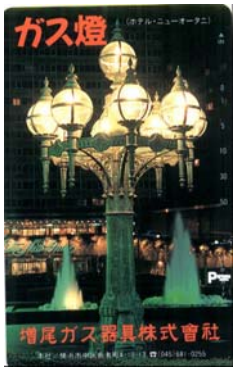




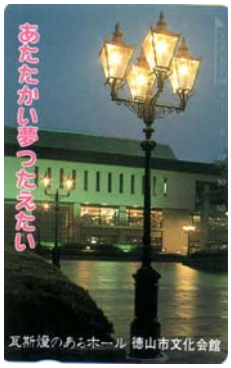
さてガス灯についてですが、そもそもガス灯は何故光るかというと、
発光液を含ませたマントルという特殊な布にガスの炎を当てることにより
黄白色の光を発するのです。ガス灯のよいところは電気の射すような光と
違い、柔らかい暖かい雰囲気を作り出すことにあります。一般家庭においても今はこの雰囲気が好まれる傾向にあるようで、間接照明やランプ・シェードの工夫で取り入れているようです。

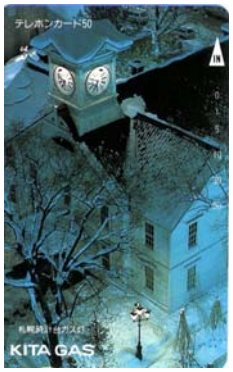


ガス灯にはロマンと旅情を醸す雰囲気もあり、全国にもガス灯のある街というのは結構あります。日本では明治初めに、横浜の馬車道に初めて灯され、人々はその明るさに驚嘆したということです。以来、文明の象徴として各地に広がり街のシンボルとして今も灯を灯しつづけています。





各地のガス灯を集めているうちに、かなりの数になったので(掲載したのは残念ですが、ほんの一部です…)『全国灯り物語』としてこれからも紹介していきたいと思っています。私も、誰かの心にふわっと灯る光でありたい、なんてことは恥ずかしくて言えません！！ではまた。

# Intermission

# 息